

426/115

YAMAGUCHI

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-173225

(43) 公開日 平成9年(1997)7月8日

(51) Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 7 J 47/01			A 4 7 J 47/01	
A 4 7 G 19/12			A 4 7 G 19/12	L
B 6 5 D 51/24			B 6 5 D 51/24	F

審査請求 未請求 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-351057

(22) 出願日 平成7年(1995)12月25日

(71) 出願人 596011105

山口 潔

千葉県船橋市大穴北2丁目11番15号

(72) 発明者 山口 潔

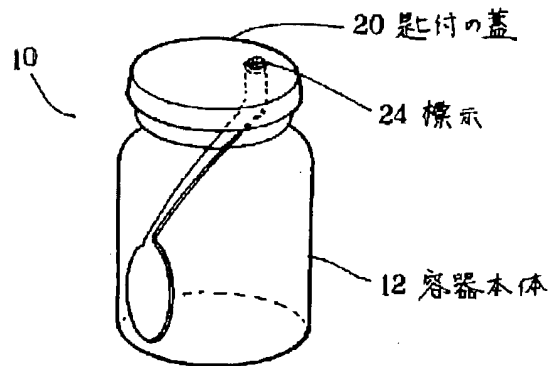
千葉県船橋市大穴北2丁目11番15号

(54) 【発明の名称】 取出具付の容器

(57) 【要約】

【目的】 取出具としての匙を蓋と一体で形成して、その匙を容器内に収納した場合でも、容器の外側から、匙の向きを判別することができる取出具付の容器の提供を目的とする。

【構成】 容器本体の開口を覆う蓋の裏面側に、容器本体の底面に向かって延出する匙を蓋と一体にして形成した。蓋の表面側には、匙のすくい部の向きを示す標示を設けることで、取出具付の容器とした。匙の向きは容器の外側から、蓋に設けた標示によって判別できるから、標示方向にすくい取ること、こぼすことなく確実に容器内から収容物を取り出すことができる。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 収容物の出入れを行うための開口を有する容器本体と、  
この容器本体の前記開口を覆う蓋と、  
この蓋の裏面側から前記容器本体の底面に向って延出され、その先端にすくい部を設けた匙と、  
前記蓋の表面側に設けられ、前記匙のすくい部の向きを示す標示とからなることを特徴とする取出具付の容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、容器内に収容した内容物の取出しが、簡単で確実にできるように改善した取出具付の容器に関する。

## 【0002】

【従来の技術】本願の従来例としては、本件出願人が考案した実願昭59-148781号がある。これについて図面を参照して説明する。図4は本発明の従来例を示す説明図である。図4で示すように取出具付の容器1は、開口を有する容器本体2と、この容器本体の開口を覆う蓋4と、この蓋の裏面側に固着され、容器本体内に配設した匙5とからなる。匙5は蓋4の内側に固着され、容器底面の斜め下方に延出することで、匙が容器内の対角線上に、配設されるように設定している。すなわち、蓋と一体で斜め方向に匙を配設することにより、容器本体の深さよりも、匙の全長が長くなるように設定したものである。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】蓋と一体にして匙を収納した透明の容器は、収容物が透明の物質であれば、匙の向きを視認することができるので問題はない。しかし、不透明な物質を容器内に収容した場合には、匙の向きを確認することができない。よって、勘によって収容物をすくっても、匙のすくい部の向きが横や裏向きであると、収容物を取出すことができないという欠点があった。本発明は、このような不具合を解消するためになされたものであり、匙の向きを、容器の外側から判別可能な状態にすることで、簡単で確実に収容物をすくい出すことができるようにした取出具付の容器の提供を目的とする。

## 【0004】

【課題を解決するための手段】上記不具合を解決するために、本発明は次のような構成としている。開口を有する容器本体の開口を覆う蓋の裏面側に、容器本体の底面に向って延出され、その先端にすくい部を有する匙を設けた。また、蓋の表面側には、匙のすくい部の向きを示す標示を設けることで、取出具付の容器とした。

## 【0005】

【作用】蓋の表面側に、匙のすくい部の方向を示す標示を設けることで、蓋を外すと同時に、蓋を持ち替えることなく、そのまま確実に収容物をすくい取ることがで

2

きるようにしたものである。

## 【0006】

【実施例】本発明の実施例について、図面を参照して説明する。図1は本発明の取出具付の容器を示す斜視図、図2は図1の一部を破断して示す分解斜視図である。図1で示すように、本発明の取出具付の容器10は、その頂部から収容物を入れることができる容器本体12と、この容器本体の開口を覆うと共に、取出具としての匙を設けた匙付の蓋20とからなる。このような容器本体12と匙付の蓋20とについて、更に詳細に説明する。容器本体12は、図2でも示すように、その頂部に収容物を出入れする為の開口14を有する一般的な容器であり、開口の周壁面には、蓋を固着するために、係止手段15としての凸溝を設けている。

【0007】匙付の蓋20は、容器本体12の開口を覆う蓋22と、この蓋の裏面側に取付けした取出具としての匙30と、この匙のすくい部34の向きを示す標示24とからなる。このような蓋22と匙30及び標示24とについて、更に詳細に説明する。蓋22は、容器本体との係止手段を設けた金属製または、合成樹脂製などよりなる一般的な蓋である。

【0008】匙30は、蓋22と直交する方向に延出した取付体31と、この取付体から取付体とは斜交する方向に延出した棒状の支持体32と、この支持体の先端に設けられ、収容物取出用のすくい部34とを有する匙である。取付体31は、その形状を特定するものではないが、蓋22の裏面側と圧着や溶着などのように、何らかの固着手段で取付けできるものであれば良い。支持体32は、匙の取付体31とすくい部34との間に介在するものであり、棒体に多少の弾性作用を持たせることで、匙全長の長さを容器の深さよりも長目に設定している。この長目に設定した匙は、すくい部の先端を、必ず容器本体12の底面に当接させることができるから、容器内に収容物を取残しすることなく、完全な取出しができるものである。支持体32を取付体31と斜交させたことにより、匙30は容器内の対角線上に配置することができると共に、支持体32の有する弾性作用によって、容器内では湾曲して挿入され、長目の匙も容器内に完全に収納して蓋をすることができる。また、すくい部34の取出し面は、図1及び図2で示すように、取付体31の位置する方向へ向けて配設している。

【0009】匙の取付例について、図面を参照して説明する。図3は匙の取付を示す説明図である。このように形成した匙30は図3で示すように、蓋22の裏面側で、その中心部から外れた周壁面に近接させて取付体31を固着する。このような取付によって、匙は容器本体内の対角線上に配置されると共に、すくい部の取出面が、常に取付体31の方向に向けられて固着される。

【0010】標示24は、すくい部34の取出面側の方向を示すものであり、特にその標示形状を限定するもの

ではない。図1で示すように蓋の表面側で、取付体31の取付位置が、判別できるような取付方法であれば、取付体31の取付部を、標示24の代用として兼用させることができる。この標示は前述したように、匙の取出面が取付体31の方向を向いていることを活用したものであり、この標示方向にすくえば、確実に収容物を取出しすることができるようにしたものである。このような標示24の例としては、他に矢印などのような標示や、蓋面に形成した凹凸などによる標示を用いる。

【0011】このように構成した取出具付の容器10の使用例について説明する。容器本体12内には、砂糖や塩などの他に、粉体や液体などを収容して蓋をする。これらの内容物を取出すには、蓋に設けた標示24の位置を確認して、すくい出しできる方向に蓋と容器とを支持してから、蓋を外し取る。匙の取出面は標示24の方向に向いているから、その方向に向って匙をすくい上げると、収容物を確実に取出しすることができる。この蓋22は、容器本体と何度も回転させて着脱させる方式のものではなく、ほんの少し回転することで、蓋の取外しができる係止手段15のものを用いると便利である。また、蓋を何回も回転させる方式の容器は、蓋を支持して回転させることなく、容器本体側を回転させることにより対応すると都合が良い。蓋を外すと弾性作用によって、湾曲した支持体32が伸びるから、蓋の多少の上昇には追従して、すくい部の先端は、常に容器の底面と内壁面とに当接している。よって、収容物が少なくなっても、底面上の残り少ない収容物を、確実に取出しすることができるものである。従来例で示した取出具付の容器であれば、特に匙の取出面の向きがわからないので、容器の外側から取出面の向きを確認するためには、透明の容器に匙付の蓋を用いなければならなかった。しかし、本発明の取出具付の容器には、蓋の表面に、匙の取出面の向きを確認することができるように標示したので、常

に匙の向きが判明し、不透明な容器本体にも用いることができるものである。

#### 【0012】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、取出具付の容器の蓋に、匙の取出面の向きを確認することができる標示を設けたことにより、以下の効果を得ることができた。すなわち、匙のすくい部の向きを確認しながら、蓋を支持して開けるので、蓋を取外したただちに収容物を確実にすくい取ることができるようになった。従来例であれば、匙の先端部が確認できるまで、蓋を持上げて向きを修正したのち、再度容器本体内に匙を挿入してから、収容物をすくい取る必要があって、途中でこぼしたりすることもあった。本発明によれば、そのような動作が不要であり、周囲を汚すこともなく、簡単に確実に収容物の取出しができるようになった。匙の取出面の向きは、容器内を確認したりすることなく判別できるから、不透明な容器にも本発明を適用することができる等の効果を得ることができた。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の取出具付の容器を示す斜視図である。

【図2】図1の一部を破断して示す分解斜視図である。

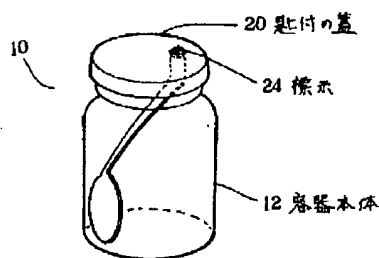
【図3】匙の取付を示す説明図である。

【図4】本発明の従来例を示す説明図である。

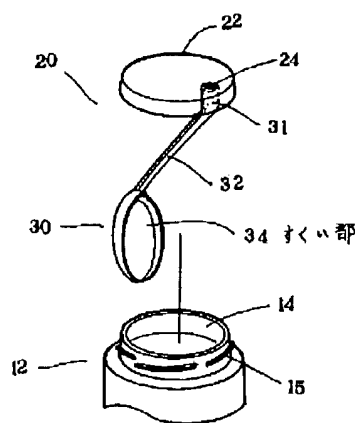
#### 【符号の説明】

- 10 取出具付の容器
- 12 容器本体
- 14 開口
- 20 匙付の蓋
- 22 蓋
- 24 標示
- 30 匙
- 34 すくい部

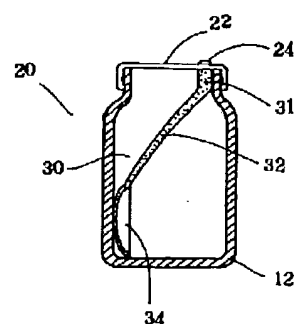
【図1】



【図2】



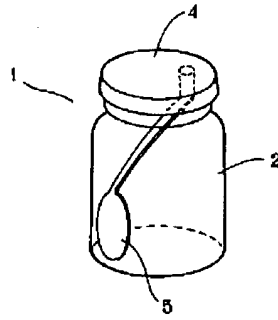
【図3】



(4)

特開平9-173225

【図4】



PAT-NO: JP409173225A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09173225 A

TITLE: VESSEL WITH SCOOP

PUBN-DATE: July 8, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

YAMAGUCHI, KIYOSHI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

YAMAGUCHI KIYOSHI

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP07351057

APPL-DATE: December 25, 1995

INT-CL (IPC): A47J047/01, A47G019/12 , B65D051/24

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To judge the direction of a spoon from the outside of  
a vessel even when the spoon is received in the vessel by forming the spoon  
as  
a scoop integrally with a lid.

SOLUTION: A spoon extended toward the bottom surface of a vessel body 12 is

formed integrally with a lid on the rear surface side of the lid covering an opening of the vessel body 12. The lid is provided on the front surface side with a sign showing the scooping direction of the spoon to provide a vessel with a scoop. Since the direction of the spoon can be judged from the outside of the vessel according to the sign provided on the lid, contents can be scooped from the interior of the vessel surely without being dropped by scooping the contents in the direction of the sign.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO